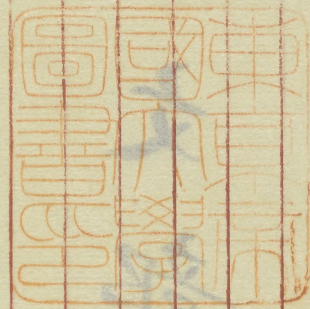
文部省達
明治十三年
文部省達
明治十三年
487
東京大学総合図書館

文部省達
明治十三年中
東京帝國大學庶務課
部門
番號 35
五十年史料
187

文部省達

明治十三年

東京大学医学部

其学部明治十三年七月ヨリ同十四年六月ニ至ル一周年補助金之儀金拾弐萬八千七百八拾四円七拾三銭三厘以内ニテ支消之目途相立各費目金員等太政官明治十二年十二月第五拾號達豫算科目條例及大蔵省本年一月乙第六號達附屬之書式ニ照準豫算取調本年二月十日限リ文部省ヘ可伺出此旨相達候事

明治十三年一月廿四日

文部卿寺島宗則

東京大学医学部

文部省所轄学校収入金ノ儀明治十二年七月以降ノ分ハ悉皆積立並将来独立維持ノ為一大資本交付ノ日ニ当リ其歳分ノ補助ニ可充見込ヲ以テ同年三月中太政官ヘ稟議ノ末其積立金保存並ニ増殖方ノ儀ハ大蔵省ニ於テ可取扱ニ付受業料并ニ学校ニ属スル不用物品売却代及有志者寄附金等明治十二年七月以降積立並収入金文部省ヘ可差出此旨相達候事

但本文収入金取扱順序等ハ追テ文部省会計課ヨリ可及通知候事

明治十三年二月六日

文部卿寺嶋宗則

會第八拾四號

明治十二年二月十三日付ヲ以テ文部省所轄學校獨立維持ノ方法漸次企圖可相成趣意ヲ以テ大藏省ヘ商議ノ次第モ有之ニ付各學校収入金同年七月以降ノ分者従前ノ通支消難相成旨甲乙丙丁戊印書類ノ写相添及御通知置候處同年三月六日付ヲ以テ別紙写ノ通太政官ヘ上申相成候處朱書ノ通御指令相成候ニ付為御心得此旨及御通知候也

明治十三年二月六日

文部省會計課副長

辻新次

東京大學醫學部綜理
池田謙斎殿

太政官書記官局 批第壹號

會第弐百三拾號

當省所轄學校收入金積立之儀上申

當省所轄學校收入金之儀從前之通被据置度云々明治八年十一月中伺出於末右者追而何分之御達可相成旨御指令有之ニ付從前之通支消致來候處抑學校之儀者是迄追々上申候通一種之資本ヲ得テ獨立保持之途ヲ相立ハ勿論既ニ明治九年十月四日附學校補助金残額納付之件ニ關シ御達有之候節將来學費積立之方法ハ更ニ大蔵省協議ヲ遂ケ可申出旨御達之趣モ有之候ニ付其方法等種々熟慮候得共到底獨立維持之途相立候ニハ現金或ハ公債證書之類ヲ以テ一大資本別途御交付相仰候外致方無之候併猶其期ニ達セサルノ

間ハ前段學校現時ニ於テ收入金僅ニ九牛ノ一毛ニ充ツル
ニ過サルモ逐年之ヲ積立候時ハ他日一大資本ヲ交付
之日ニ至リ亦幾分之補助トモ可相成與存候ニ付前件
大蔵省ト及商議置候仍テ學校收入金之儀本年
七月以降右支消ヲ止メ悉皆一ノ積立候此旨上申
候也

明治十二年三月六日　文部大輔田中不二麿

太政大臣三條実美殿

上申之趣聞届候尤積立金保存并増殖方之儀別
紙ノ通大蔵省江相達候條受業料并學校ニ属スル
不用物品賣却代及ヒ有志者寄附金等悉皆同省ヘ
送付可致事
但收入金出納之儀ハ定額金同様派出検査
員ノ検査ヲ受候儀ト心得ヘシ

明治十三年一月十三日

右大臣岩倉具視印

大蔵省

別紙文部省上申同省所轄学校収入金積立之儀朱書之通及指令候条右保存并増殖方之儀ハ其省ニ於テ取扱其顛末年々文部省ト報告可致此旨相達候事

明治十三年一月十二日　右大臣岩倉具視

東京大學医學部

文部省中學務課報告課ノ二課ヲ廃シ官立學務局地方學務局編輯局報告局ノ四局ヲ置キ會計課ヲ會計局ト改稱候條此旨相達候事

明治十三年三月廿五日

文部卿河野敏鎌

官立學務局

官立學校官立書籍館官立博物館等ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

地方學務局

各地方學事ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

會計局

本省及所轄各部ノ會計ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

編輯局

学務上ニ所要ノ図書編輯印行等ニ関スル一切ノ事務ヲ掌ル

報告局

学務上ニ関スル報告及雑誌日誌等ヲ調製スル一切ノ事務ヲ掌ル

東京大学医学部

其学部当十二年度補助金中正貨幣交換差額ノ分金壱萬弐百弐拾弐円拾七銭増額ノ條遣拂豫算相立度申出此旨相達候事

明治十三年四月廿七日

文部卿河野敏鎌

書ノ字ヲ削リ及全行ヲ除ル属ノ八字擬カノ旨同年八月廿七日付ヲ以召達アリ

東京大學法理文學部
東京大學醫學部
大坂專門學校
東京外國語學校
東京師範學校
東京女子師範學校
体操傳習所
教育博物館

所轄各學校部所館教員并御用掛等採用ノ
[illegible]請ニ付テハ自今本人ノ性行履歴等詳
記載シ可差出此旨相達候事
外國人ヲ採用候儀ハ従前ノ通可相心

東京大學法理文學部
東京大學医學部
大坂專門學校
東京外国語學校
東京師範學校
東京女子師範學校
体操傳習所
教育博物館

文部省所轄各學校部所館教員并御用掛等採用ノ儀ニ付稟請ス節ハ自今本人ノ性行履歴等詳細別紙ニ記載シテ差出ス此旨相達候事

但外國人ヲ採用スル儀ハ従前ノ通リ可相心

得事

明治十三年四月三十日　文部卿河野敏鎌

東京大学医学部

以下略ス

別紙之通り被達候ニ付今後文部省ニ於テ直轄候條此旨相達候事

明治十三年五月十二日　文部卿河野敏鎌

文部省

東京府脚氣病院之儀自今其省ニ於テ管理可致就テハ該院補助金壱万三千九百七拾円宛向三箇年間其省定額ヘ増加候條此旨相達候事

但従前取扱方等之儀ハ内務省ニ可承合事

明治十三年四月廿六日　太政大臣三條実美

東京府

今回其府書籍館當省ヘ引継開設候儀伺済相成候ニ付明治十年三月貸付該府ヘ地所建物并ニ其節交付候書籍器具等來ル七月ヨリ返還可致候ニ付テハ地所建物ハ成規ニヨリ内務省ヘ返還ニ書籍器具等ハ目録相添詳細可届出此旨相達候事

但本文ノ件第四千九百七拾五號申出ノ通可相心得事

明治十三年五月十七日　文部卿河野敏鎌

東京大學醫學部

其学部當十二年度補助金中金弐千円増額候條遣拂豫算相立可申出此旨相達候事

明治十三年五月廿四日

文部卿河野敏鎌

東京大學医學部

別紙之通外務卿ヨリ通知有之候條右マルテン氏其學部所館ニ参観ノ儀有之候ハヽ相當之待遇可有之此旨諭ヲ為心得相達候事

明治十三年五月廿九日

文部卿河野敏鎌

清國北京同文館總教習マルチン氏即丁韙良ナリ
應壹年半ノ告暇ヲ以テ本国ニ立帰リ夫ヨリ欧
洲ヲモ相越各国現今ノ学政歴観帰後清国
政府ニ建議育材ノ途相立候旨ノ由話ス
夫本邦ニハ土風人情ヲ近似ノ事故本邦学
政ノ実況別テ視察致度帰路立寄リ申旨ニ付
北京我公使ヨリ請諾ノ旨趣且同氏ハ同治元年
同文館設置已来清廷ニ被相雇西学教習ニ尽力
今年ニ為ル十箇ニ満恭親王始諸大臣ニモ大ニ信用
ヲ致シ既ニ大西ニ冠タリトノ意ヲ以テ冠西ノ先生ト
尊称被致候程ノ由ニ付必ス貴省ニモ出頭可
致ト存候間可然御待遇有之度此段及陳候

通知候也

十三年五月廿二日　外務卿井上馨

文部卿河野敏鎌殿

東京大學醫學部

東京府脚氣病院審査事務自今東京大學醫學部ニ
於テ擔任可致此旨相達候事

明治十三年五月廿九日

文部卿河野敏鎌

東京大學醫學部

東京府脚氣病院管理事務過ル廿八日内務省ヨリ當省ニ引繼候條此旨為心得相達候事

但該件ニ付過ル十二日達ハ取消候儀ト心得ベシ

明治十三年六月一日

文部卿河野敏鎌

東京大學医學部

其部ニ於テ自今月給金拾円ヲ踰ル傭員ヲ進退スルハ具状稟請ノ上施行可致拾円以下ノ者ハ施行ノ後其理由及ヒ給額等ヲ記載シ可届出此旨相達候事

但従前ノ事務章程中本文ニ抵触スル條項ハ廃止タルヘシ

明治十三年六月一日

文部卿河野敏鎌

六月五日

文部權大書記官中島永元

文部權大書記官島田三郎　御巡幸供奉不在中内記所長兼務可致事

東京大學醫學部

小官儀陸巡幸供奉不在中文部少輔九鬼隆一ヘ省務代理ヲ囑託候條此旨相達候也

明治十三年六月十五日

文部卿河野敏鎌

東京大学医学部

自今其部所蔵ノ圖書并ニ器械模型標品等毎学年末ノ調査ヲ以テ分類目録ヲ編纂シ或ハ便宜印行シ毎学年ノ始メ九十日已内ニ差出ス可キ事

但器械模型標品等ハ一々成丈和洋ノ各名ヲ記載スヘキ事

明治十三年六月九日

文部卿河野敏鎌代理

文部少輔九鬼隆一

東京大學醫學部

自今其部所屬ノ地所并家屋毎學年ノ始ノ調査ヲ以テ圖面ヲ製シ共ニ面積ヲ掲ケ且各室ノ所用ヲ載セ毎學年ノ始メ三十日以内ニ差出スヘキ事

但シ圖面ハ實測三百分一ニ製スヘキ事

明治十三年六月九日

文部卿河野敏鎌代理

文部少輔九鬼隆一

東京大學医學部

自今其部學年ニ據リ左記ノ要目ニ準シ暦年西年ニ跨ル一覧ヲ編纂印行シ該學年ノ始ヨリ五十日以内ニ差出スヘキ事

但獨逸文一覧モ仝時ニ編纂印行差出スヘキ事

文部卿河野敏鎌代理

明治十三年六月九日　文部少輔九鬼隆一

編纂要目大畧左ノ如シ

沿革畧　創立以来沿革ノ概要ヲ叙ス

教旨　教養ノ大旨ヲ示ス

學年及學期　学年ノ始終、学期ノ区分日数等

學科課程　学修期年、学級名称、学科目、毎科授業時間其他要項等

教科細目　各科教課ノ要目ヲ詳録シ教科書及参考書ヲ記載ス等

入學　入学期日、志願者分限、願書及学業履歴式、入学試業科目、合格準規、保証人分限証書式等

試業及學級進退　試業定度、試業期日、学級進退準規等

學業証書　証書種類、授与制限期日等

休業期日

教室及実験場　開閉、管理法等

圖書　出納貸附閲覧條規等

器械薬品　出納貸給條規等

模型標品　出納貸附観覧條規等

生徒費用　受業料及其扱法、食餌炭油洗濯其他雑品ノ概費、給費金及其條規等

寄宿舎規則　学室、寝室、食堂、欠課、外出、外泊、下宿、帰省、及其他ノ條規等

通學生規則　欠課帰省等

綜理教員等姓名　附本籍、教員受持学科、属員分課等

生徒姓名　附本籍員数總計等

卒業生姓名　附本籍、卒業年月、員数総計等

學位記　学位称号、授与制限等

医院規則

已上数規校則類ハ總テ該学年ノ始ヨリ実行スヘキモノヲ掲ケ教員生徒等ノ姓名ハ該學

年ノ始ノ調査ヲ以テ記スヘシ

東京大學醫學部

今般東京府ニ於テ病院并癲狂院ヲ本郷区同
府病院地ヘ建築致シ候ニ付治療上病室等之都合
同府ヨリ其學部ト協議致シ度趣ニ付甚都合便宜協
議可致此旨相達候事

明治十三年七月六日

文部卿河野敏鎌代理
文部少輔九鬼隆一

東京大學 法理医文學部
大坂専門學校
東京外國語學校
東京師範學校
東京女子師範學校
體操傳習所
教育博物館
東京圖書館
東京學士會院
文部省十三年度経費金ノ儀ニ付別紙写ノ

通太政官ゟ達有之候ニ付為心得此旨相達候事

明治十三年七月十三日

文部卿河野敏鎌代理
文部少輔九鬼隆一

文部省

一金百拾四萬六千百円

同省

一金弐萬三千九百七拾円　東京府下脚氣病院設立補助

明治十三年度経費前書之通相定候條右金額ヲ目途トシ豫算内譯明細簿ヲ調製シ至急大蔵省ヘ可差出此旨相達候事

但十二年度中経費豫算外増費ヲ以テ許可セシ事業ノ未タ成功ニ至ラス十三年度ニ於テ尚費用ヲ要スルモノ有之候共本文金額ノ内ヲ以テ支辨候儀ト心得ヘシ

明治十三年六月三十日

左大臣熾仁親王

東京大学医学部

其学部明治十三年七月ヨリ同十四年六月ニ至ル一周年補助金之儀ニ付本年一月廿四日附相達置候處右改メテ金拾三萬九千四百四拾九円以内ヲ以支辨之目途相立豫算取調更ニ可伺出此旨相達候事

明治十三年七月十三日

文部卿河野敏鎌代理

文部少輔九鬼隆一

東京大学医学部

其部教員並傭員等ノ現数毎月調出候處自今別紙書式ニ準シ教員受持学科並傭員分掌等記載可差出此旨更ニ相達候事

文部卿河野敏鎌代理

明治十三年七月十四日

文部少輔九鬼隆一

書式案

某年某月　日現員ノ調

月俸又ハ年俸　若干　綜理（又ハ綜理補心得　摂理　摂理補　学校長　同補　主幹　館長　同補）　姓名

教員

同上　教授（又ハ員外教授　助教　訓導　助訓）　姓名

受持学科何々

雇員　教職之分

同上　姓名

受持学科何々

雇員事務掛ノ分

分掌何々

姓　名

同上・

但報酬金相與候者有之候ハヽ右ニ準シ記載スベシ

東京大學（法理医文）學部

大坂専門學校

東京外國語學校

東京師範學校

東京女子師範學校

體操傳習所

教育博物館

東京圖書館

東京學士會院

文部省十三年度經費金ノ儀ニ付別紙寫ノ通

太政官従達有之候ニ付為心得此旨相達候事

明治十三年七月十四日

文部卿河野敏鎌代理

文部少輔九鬼隆一

文部省

一金三萬五千円

其省十三年度經費ヘ前書之通増額候條此旨相達候事

明治十三年七月八日　左大臣熾仁親王

東京大學醫學部

文部省所轄學校收入金之儀ニ付テハ本年二月六日相達候趣モ有之候處右ハ廢消候条十二年度迄之收入金ハ悉皆文部省ヘ早々可差出十三年度以降之收入金ハ總テ税外收入トシテ毎月分翌月十日迄ニ文部省ヘ可納付此旨相達候事

明治十三年七月十七日

文部卿河野敏鎌代理

文部少輔九鬼隆一

東京大学医学部

其学部補助金之儀自今経費金ト改称候条
此旨相達候事

明治十三年七月十七日

文部卿河野敏鎌代理
文部少輔九鬼隆一

東京大学医学部

歐洲ニ於テ購求候教育上有用物品別紙目次ノ
通其部ヘ交付候条此旨相達候事

但本文物品ノ儀夫已ニ回付ノ年月日ヲ以
交付候儀ト可相心得候事

明治十三年七月廿四日

文部卿河野敏鎌代理
文部少輔九鬼隆一

明治十二年十月廿三日回付物品目次

プレパラート貯蔵硝子瓶大　百本
プレパラート貯蔵硝子瓶小　百本
貯氣筒　壹個
ヒクノメーテル　壹個
仝小ノ分　壹個
オイジオメーテル　壹個
ウーオタメーテル　壹個
コローールカルシユム管　拾貳個
マイス子ル陶器　大小　貳個
沪計管　八個
レトルト　十個

大五重顕微鏡器械　壹箱
小顕微鏡器械　壹箱
硝子ヘーネ　六種
硝子グロッケ　三種
ヘー子附大硝子壜　壹個
「ウオルフ」氏硝子壜　壹個
硝子製トロケンアッパラート　壹個
アッパラート、ウム、ラックレンデル、ツーチーヘン　壹個
アッパラート、ウム、デッキグレゼル、ツウソッセン　貳個
クエッツヘー子　拾三個
黄銅製ヘー子　三個
コルクボーレル　壹個
ゲステル、ミット、テルレルン、ヨーベン　三個

ケーゲルツアンゲ、ミット プラチンスピッツエン　壹個
ポルセライン、チーゲル　五個
ミユルゼル　壹個
ミクロトーム　六種
硝子ヘーネ　四個
メスシリンデル　貳個
ミクロトーム、刀　貳個
最上スタイスリイメン　三拾六個
ラテルナマギカ　貳個
組織學用プレパラート　百枚
鉄製大ゲステル　壹個

各部校所館
東京圖書館ヲ除ク

東京圖書館伍次順序之儀別紙之通該館ヘ
相達候ニ就テハ文部省直轄局部順次自今
左之通相定候条此旨相達候事

明治十三年八月四日

文部卿河野敏鎌

文部省直轄局部順次
左之如シ
東京大學法理文學部
豫備門○植物園
東京大學醫學部

醫院
大阪專門学校
東京外国語学校
東京師範学校
附属小学校
東京女子師範学校
練習小学校○幼稚園
東京図書館
教育博物館
東京学士會院
体操傳習所

東京図書館

文部省直轄局部中其館位次順序ノ儀
東京女子師範学校ノ次キ教育博物館ノ上ト
相定候条此旨相達候事

明治十三年八月四日　文部卿河野敏鎌

東京大學法理文學部
東京大學医學部
大坂専門學校
東京外國語學校
東京師範學校
東京女子師範學校
東京圖書館
教育博物館
体操傳習所

本年四月三十日ヲ以テ教員并ニ法用掛等採用
云々相達候處右法用掛ノ下等ノ字ヲ除キ「及
金拾円ヲ踰ル雇」ノ八字ヲ増加候条此旨更ニ

相達候事

明治十三年八月廿七日　文部卿河野敏鎌

東京大学三学部
東京大学医学部
東京師範学校

文部省編輯局ニ於テ今後編纂翻譯ノ儀別紙ノ通該局ヨリ照達候条右及諮詢候節ハ其部校ノ見込ヲ以テ可否應答可致此旨相達候事

明治十三年九月二日

文部卿河野敏鎌

編輯局

其局ニ於テ今後編纂翻訳等ニ可致書籍ニシテ内大学需用ノ目的ヲ以テスル書ハ東京大学ヘ諮詢シ中小学及師範学校ノ目的ヲ以テスルモノハ師範学校ヘ諮詢シ上編輯ニ可致此旨相達候事

明治十三年九月二日

文部卿河野敏鎌

東京大學医學部

當十三年度ヨリ経費科目中教場費ノ内消耗品ノ次ヘ授与式費ノ細科目相設卒業生徒學位若クハ卒業證書授與ニ係ル費用組込可申此旨相達候事

明治十三年九月六日

文部卿河野敏鎌

東京大学医学部

以下畧ス

当省直轄局部ニ奉仕スル者ニシテ事故ニ托シテ甲ヲ辞シ直チニ乙ニ転職スル等ノ事有之ニ於テハ管理上不都合不少候ニ付自今各局部ニ於テ他ノ局部奉仕ノ者ヲ採用スル節ハ先双方協議ノ上稟申致候様可致此旨相達候事

但月給拾円以下開申ニ止マル者モ本文ニ準シ可取計事

明治十三年九月十五日

文部卿河野敏鎌

東京大学医学部

第二回内國勸業博覧會教育部ハ其学部出品ノ儀本年七月十二日相達置候處右該會ハ出品ノ儀右見合専ラ教育ニ係ルノミ觀覧セシムルノ旨趣ヲ以テ特ニ教育博物館構内ニ一宇ヲ假設シ爰ニ臚列本會開場中公衆ニ縦覧可為致ニ付テハ其旨可相心得別紙目録ニ照準シ適宜選擇出品可致此段更ニ相達候事

明治十三年九月十八日

文部卿河野敏鎌

目録

學規類

學校、教場、実験室ノ建築圖又ハ撮影内外部

但巨大ナル圖ハ掲示ニ不便ナレハ其面積ノ大ナラサルモノヲ可トス

生徒ノ試業答書畫等、作文、描畫、論文類

但試業答書等ノ如キハ毎級冊子ニ装スルヲ可トス生徒ノ描圖畫ハ或ハ冊子ニ装シ或ハ扁額ニ装スルモノト雖モ可成巨大ナラサルヲ要ス且級名人名年齢等ヲ記載スルヲ可トス

生徒所用ノ教科書若クハ参考書類

但本文ノ書籍ハ和洋ノ書ヲ問ハス都テ生徒ノ修習ニ用フルモノヲ各級ニ分類シ又参考書ハ主トシテ生徒ノ用フルモノヲ云フ若シ出品難成モノハ精細ノ目録ヲ製シ出陳スルモ妨ナシ

圖書類其学部編輯刊行ニ係ルモノ

諸学科用器械器具模型標品類其學部製造ニ係ルモノ

圖書器械模型標品類目録

所轄各部校館所

當省所轄東京圖書館規則及圖書帯出特許票付與規則別冊ノ通相定候條該特許票需用ニ於テハ右規則ニ準シ申稟可致此旨相達候事

明治十三年九月廿八日

文部卿河野敏鎌

別冊略ス

東京大學医學部

以下畧ス

別紙之通及達相成候ニ付各局部所蔵ノ洋書并ニ反譯書訖了ノ分共雛形ニ照準シ早々取調可差出此旨相達候事

明治十三年十月廿六日　文部卿河野敏鎌

文部省

其省所蔵ノ洋書目録別紙雛形ニ照準シ法律経済政事軍事外交文学理学工芸製産諸報告雑書等ハ類別ヲ以テ取調早ニ可差出尚今後増減有之節ハ其時ニ内閣書記官局ヘ通知可致此旨相達候事

但反譯ト雖モ全部又ハ其一部譯了ノモノハ本文ニ準シ可取調事

明治十三年十月廿二日　太政大臣三條実美

何々国語書目

法律書

何々氏著

一原名何々　何年出版又ハ何年改版　何冊

譯名何々　同書名ノモノ数部アル片ハ其部数ヲ此ニ記載スヘシ以下之ニ準ス

何々氏著

一仝　仝　何冊

・仝

・合計何冊

経済書

何々氏著
一原名何々　　何年出版文ハ何年改版　何冊
・譯名何々
何々氏著
一仝　　仝　何冊
仝
合計何冊
以下之ニ傚フ

官學第六百號

毎學年御進達ノ相成候一覽之儀其沿革略之外ハ學年始之事項ヲ掲載シ相成候ニ於テハ右御進達期限内ニ在リ第一教則其他之改更等有之候得ハ其事項ハ學年始以後之事ニ係リ候ヘトモ該覽御編纂之御都合ニ由リテハ一覽中ニ御掲記相成候差支無之儀ニ有之候此段及御通牒候也

明治十三年十一月二日　文部少書記官濱尾新

官立學務局長

東京大學醫學部綜理
池田謙齋殿

医局沿革畧之儀ハ学年始以後之事ニ係リ候トモ該進達期限内ニ合セ候都合ニ依リ該登記相成差支無之儀ニ付此段申添候也

東京大学医学部

以下畧ス

昨五日別紙之通御達相成候ニ付右写三通相添為心得此旨相達候事

但各局部ニ於テモ該趣旨ヲ体シ事務之緩急ニ応シ費途節減之見込相立以テ取調可申出候事

明治十三年十二月六日　文部卿河野敏鎌

文部省

今般財政改革ニ付勉メテ行政事務ノ繁ヲ省キ簡ニ就キ善ク其緩急ヲ計リ成ルヘク新事業ノ起興ヲ見合セ其既成若クハ着手中ノモノハ此際一層ノ省畧ヲ加ヘ以テ各廳ノ経費上若干ノ減省ヲ施サントス就テハ其省経費定額ノ儀来ル十四年度以後ハ本年度既定額ヨリ弐拾萬円ヲ減少スヘキ見込ヲ以テ事務ノ省畧費途節減ノ方案取調来月三十日限リ具申可致此旨相達候事

明治十三年十一月五日

太政大臣三條實美

文部省

今般正貨ノ歳入ヲ計査シ凡ソ外國ニ関スル費用（海外派出官員並ニ生徒費傭外國人給与諸機械物品書籍音信費等凡ソ正貨ヲ以テ支拂フヘキモノ及ヒ紙幣ヲ交換シテ支拂フヘキモノヲ云フ）ハ悉皆正貨ノ歳入ヲ以テ支辨スヘキヿニ決定イタシ候就而ハ来ル十四年度ヨリ海外留学生費其他所管事務ノ経費ニシテ右ニ属スル費用ハ悉皆正貨揩萬圖ヲ以テ減省支辨スヘキ見込相立本月三十日限リ具状イタスヘシ此旨相達候事

明治十三年十一月五日

太政大臣三條実美

文部省

今般外國ニ關スル費用ノ定額相達候ニ就テハ来ル十四年度以後右定額ハ大藏省ヨリ正貨ヲ以テ交付スヘク候條從前外國ニ關スル費用ハ其省經費定額中差引大藏省ヘ納付スヘキ儀ニ付本月三十日限リ其區別相立金額取調具申致スヘシ此旨相達候事

明治十三年十一月廿日

太政大臣三條實美

東京大學医學部

本省廳舎建築中假玄関其他昇降口門頭ヨリ相隔リ且濘途モ有之不便ニ付太政官ヘ経伺ノ末判任官以下門内ノ下馬下乗差許ス条此旨相達候事

明治十三年十一月八日

文部卿河野敏鎌

會第千弐拾五号

法学部十三年度豫算決定之儀ニ付本日文部卿ヨリ達之趣有之ニ付而右豫算帳進達之節法差出之伺書ヘハ別段指令不相成候此段申進候也

明治十三年十一月八日

會計局長
文部大書記官牟田口元学

東京大学医学部綜理
池田謙斎殿

東京大學医學部

其學部當十三年度經費豫算之儀先般調製進達之通決定候條此旨相達候事

明治十三年十一月八日

文部卿河野敏鎌

東京大學医學部

其學部各級生徒日課時間割之儀自今毎學期之始一括製表ニテ差出此旨相達候事

但改正候ハゝ其都度可届出候事

明治十三年十一月廿四日

文部卿河野敏鎌

内発四百三拾九号

本省所蔵洋書目録取調ノ儀ニ付過ル十月廿六日及達相成候処該雛形ニ準シ調製候ハ不容易事ニ付甲号内閣書記官ヘ照会候処丙号回答相成候ニ付右ニ準據早々ニ及取調可相成候

此旨及回達候也

明治十三年十一月廿五日

文部省内記所長

東京大学医学部

御中

甲号

當省所蔵ノ洋書目録取調方ノ儀今第七號
ヲ以テ御達有之候處当省并東京圖書館其他
所轄各局部等ノ蔵書夥多ニシテ従前ノ分類
目録ヲ其儘謄寫致候ニモ若干ノ費用ト日子ヲ可
要ノ處今回御達ノ雛形ニ據リ調製致候ハヾ不容
易事業ニ有之付テハ多分ノ月日ト額外費用ト
ヲ要シ候儀ニ付可相成ハ従前ノ目録ヲ謄寫
差出申度右ニテ御用辨相成可然哉此旨一應
及御問合候也

追テ今回雛形ノ通調製候ニハ別紙甲号ノ
如ク片假名ニテ可取調哉又ハ乙号横文ノ方
可然哉且譯書ノ儀ハ省中ヲヒテ飜訳ノモ

ノ而已ニ有之哉或ハ他ノ譯書ニテモ省中所蔵
ノモノハ悉ク取調可申事ニ有之哉右記書之
儀者原書ノ表題原著者ノ姓名其出版ノ年
月等ヲ記載セサルモノ往々有之候ニ付一々其原
書ニ遡リテ捜索スルハ不容易儀ニ而更ニ許多
ノ費用ト日月ヲ要シ可申ト存候得共其レニ拘ハ
ラス取調可申哉此段モ併セテ及御問合候
也

内閣書記官
御中

文部書記官

丙號

内閣書記官局 復第九號

御省所蔵ノ洋書目録取調方之儀ニ付御問合之
趣致承知候右ハ御申越之通リ従前之分類
目録ヲ其侭謄寫御差出可有之此段及御回答
候也

明治十三年十一月十九日　内閣書記官

文部書記官
御中

追而本文書目之儀者御達之形ニハ相違候へ
共御来示之雛形乙号之如ク横文之方ニテ調
製之且ツ譯書之儀者御省ニテ翻譯ノモノハ勿論

他ノ譯書ト雖モ除省所載ノモノハ左束ノ書
名ヲ其傳記載ニ甚原書表題著者ノ姓名等
謄録ヲ分ナ一々原書ニ遡リ捜索ニハ不及ト
然早ニ除取調除差出一ヶ有之ト也

乙號

英語書目

法律書

Aird. Blackstone Economized: being a Compendium of the Law of England to the Present Time 2nd edition 1873 1Vol.

ブラックストラン氏英國法律概畧 西暦一千八百七十三年第二版 一冊 貳部

私犯法

Addison Law of Torts 3rd edition 1874 1Vol

西暦千八百七十四年第三版 一冊 拾三部

東京大學医學部

来明治十四年教育博物館構内教育品陳列場ヘ
其部ヨリ可差出物品ハ本月廿五日ヨリ来一月二
十日限リ該場ヘ搬入可致且物品目録ノ儀ハ
同時文部省ヘ可差出此旨相達候事
但運搬費請取方ノ儀ハ物品悉皆運搬済ノ
上精算書ヲ以テ會計局ヘ請求可致候事

明治十三年十二月八日

文部卿河野敏鎌

東京大學醫學部

其學部事務章程中左之通加除訂正候條此旨相
達候事

明治十三年十二月十日　文部卿河野敏鎌

上欵第一　學科課程ヲ制定釐革スル事

上欵第九　諸規則ヲ制定釐革スル事

上欵第十　外国教員ノ備入備継備止ヲ決シ并
其月給ヲ定ノ其條約ヲ結フ事

上欵第三項同第五項下欵第一項同第二項同第
三項ハ删除ス

用度課

総理　庶務課

市川寛繁

第六百弐號

別紙之通文部卿ヨリ被相達候ニ付為心得諸局課ヘ通知致シ可然哉相伺候也

明治十三年十二月十六日

東京大學醫學部

今般財政改革ノ儀被相達候ニ付各局部ニ於テモ諸建築修繕ハ勿論需用物品等ニ至ルマテ總テ費用ニ関スルモノハ省略ヲ旨トシ経費節減候様精々注意可致此旨相達候事

明治十三年十二月十五日

文部卿河野敏鎌

東京大學醫學部

當十三年度ヨリ各學校經費科目學生費ノ内旅費ノ次ニ療養費ノ細科目相設ケ生徒ノ為ニ仕拂ヲ要スル診察料及藥價等ノ費項右ニ向ハ右科目ニ編入可致此旨相達候事

明治十三年十二月十七日

文部卿河野敏鎌

東京大學醫學部

其部ニ於テ月給金拾円ヲ踰ル傭員ヲ進退スルハ稟請ノ上施行可致旨本年六月一日附ヲ以テ相達候處年給ハ勿論日給タリトモ一月ニ計算シ金額拾円ヲ踰エ辭令書ヲ附與シテ職務ヲ負擔セシムル者ハ前項同様稟請可致儀ト可心得此旨相達候事

明治十三年十二月二十日

文部卿河野敏鎌